

# 黒岩探訪

たんぼう

14

KUROIWA  
くろいわ

ねがいこめ百庚申の行者塚

今年の運動会高学年種目の組み体操の演技の中で、黒岩カルタから題材として八つの札を取り上げ表現してしました。その内の一つがこの札です。今回はこれを取り上げます。

## 一 庚申とは

干支（えと）は普段十二支（じゅうにし）を意識していますが、詳しくは十干（じっかん）と十二支（じゅうにし）の組み合わせで甲子（きのえ）から癸亥（みずのえ）までの六十通りがあります。これが六十で一巡すると還暦です。庚申（かのえさる）も六十日に一度、また六十日巡りてきま

|   |   |
|---|---|
| じっかん<br>十 干<br>甲 (きのえ)<br>乙 (きのと)<br>丙 (ひのえ)<br>丁 (ひのと)<br>戊 (つちのえ)<br>己 (つちのと)<br>庚 (かのえ)<br>辛 (かのと)<br>壬 (みずのえ)<br>癸 (みずのと) | じゅうにし<br>十 支<br>子 (ね)<br>丑 (うし)<br>寅 (とら)<br>卯 (う)<br>辰 (たつ)<br>巳 (み)<br>午 (うま)<br>未 (ひつじ)<br>申 (さる)<br>酉 (とり)<br>戌 (いぬ)<br>亥 (い) |
|---|---|

## 二 庚申信仰とは

江戸時代に急速に庶民の間に広まった信仰です。庚申の日の夜、人々が集まって話や食事をしながら夜を徹して過ごし「三尸（さんし）の虫」が天帝（てんてい）に会いに行くのを防ぐ行事です。体の中にいる三尸は、庚申の日に人が睡眠中に天に昇り、天帝に人の罪過（ざいか）を告げて命を縮めようとするので、それを防ぐため寝ないで過ごしたといわれます。

## 三 庚申塔とは

右記の行事の証拠に建てた石造物です。市内で最も多い石造物はこの庚申塔で、旧市内全体で約千基を数え、石造物全体の30%を占めます。江戸時代後期の庚申年にあたる寛政12年（1800）年前後の建立が多いことが特徴です。

## 四 百庚申とは

一箇所に百基前後の庚申塔が集まるところを百庚申といい、富岡市内では、中高瀬や田篠にも見られます。

## 五 機足百庚申について

機足百庚申は機足地区の富岡霊園の上の塚状の所にあり、中高瀬に多いのが九基の庚申塔を数えます。4年（1715）、寛政6年（1794）、享保9年（1799）、寛政12年（1800）、文政7年（1824）、天保7年（1836）があり、また、記名されたなかには河原姓や野口姓があり、この地区のご先祖がしるべきな地区の使

黒岩地区には、比較的多くの石造物が残されており、黒岩の伝統文化を感じます。紹介の機会にしたいと思います。



写真 運動会での機足百庚申の表現



写真 機足百庚申（提供文化財保護課）